

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3392700013		
法人名	有限会社 ベルヴィ		
事業所名	やすらぎホーム 鴨方 (2Fユニット)		
所在地	岡山県浅口市鴨方町深田439-1		
自己評価作成日	平成23年11月28日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3392700013&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成23年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 前年度の目標であった利用者様の塗り絵や木工細工を市の文化祭に出展する事が出来た。 やまぼうし通信の継続 1F/2F合同でのレクリエーション 各ユニットの出入り口を開錠し、利用者様が自由に出入りできる環境の整備、利用者様と一緒に畑を耕し、出来た野菜を皆で美味しく食べさせてもらった。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>昨年度の外部評価の訪問で、「新生やすらぎホーム鴨方」の息吹を感じ、目標達成計画へのチャレンジの意欲を確認したが、今日一日の滞在でも、それらをしっかりと見届ける事ができた。昨年度の数々の提案にきちんと向き合い、着実に実践につないでいるこのエネルギーは、若い二人の男性管理者と職員の絶妙なハーモニーによるものだろうか。私達の予想を遥かに超える今日の日々に少し驚いている。特にかねがね目標に掲げている「地域との交流」は、利用者の生き活きた日々にもつながり、開かれたホームへの波及効果は大きい。一歩も二歩も前進している今のホームの姿に期待感益々高まってくる。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない 	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない 	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<ol style="list-style-type: none"> 大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に経営理念・運営方針を掲げ、意識を持ち、利用者様や家族様、地域の人達に満足して頂けるよう取り組んでいる。	会社が掲げている理念を踏まえ、このホームの今年度の具体的目標を定め職員が共有し実現している。特に家族や地域との交流については徐々に実績が積み重ねられており、記録からもその様子がよく伺われた。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の夏祭りに参加したり、神輿が来た時に一緒に写真を撮ったり等をして交流を深めている。	昨年度提案し、目標達成計画にも取り上げた地区の公民館での作品出展や、地域の溝掃除に参加したりした事が、地域交流への道を更に大きく広げている。ボランティアも増え、犬の散歩で立ち寄ってくれる人もあるようになった。	開かれたホーム目指しての取り組みは順調に進んでいる。その輪が広がりつつある今、さらに視野を広げ、助けたり、助けられたりの関係を探っていくことを期待している。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3ヶ月に 回、ホーム発行の新聞“やまぼうし通信”を発刊し、ホームの動向、利用者様の様子等を外部に発信している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開き、市職員や家族様から意見、要望を聞き、改善すべき事があれば速やかに対処している。	浅口市の高齢者支援課・地域住民代表の民生委員・家族代表が参加してホームの現状や活動報告・情報交換・意見交換をしている。参加者から良い提案やアドバイスも見られ、実のある運営推進会議が実施されている。	有益な会の運営が記録から読み取れるが、出された要望やアドバイスのその後の取り組みの報告が次回があれば、より一層その効果がお互い確認できて良いのではないだろうか。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の研修会に積極的に参加している。また分からない事等があれば電話をして聞いたり、直接市に行って話を聞きにいっている。	浅口市の担当者は認知症対策にとりわけ造詣が深く、運営推進会議でも適切な指導やアドバイスをしている。情報交換も綿密で、グループホームの実情やケアのあり方等よく理解して良い連携をとっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や委員会にて拘束に関する会議をし、知識を深めている。	出口を開放しているため、今日も何度も外へ出る人に職員がその都度付き合っていた。引っかけ傷の激しい人に対して、夜間防止するための対応をしているが、身体拘束廃止委員会で検討し続けている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待は勿論のことだが、精神的虐待が行われないう、言葉使い、行動にも気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方の保証人様と受診や小さな買物に至る事等、密に連絡を取り合い、関係を深めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書を参照に十分な説明を行い、重度化や看取りについて対応も詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会に来られた時に、家族様から要望があった事を職員全員に伝え、その要望に応えられるよう職員全員で取り組んだ。	季刊で発行しているホームのたより「やまぼうし通信」は素晴らしい内容になっている。運営推進会議では毎回家族の発言があり、それを反映して改善された例も聞いた。日常的には面会時等に家族とよくコミュニケーションをとっている。	ホーム側からの情報発信にもまだ工夫の余地はあるが、家族からの意見・要望の受け入れについては今後の課題と言えるかもしれない。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1度、代表者と管理者の会議を行い、1ヶ月に1度、1F・2Fの職員が集まり、事業所全体の会議を行っている。	会社の組織の中の各種会議で職員の意見・要望等は確実につながり、運営に反映されるシステムが出来ている。グループホーム内では、管理者が両ユニット共若く、話しやすい雰囲気があるのではないと思う。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいをを持って働けるように労働環境を整えていっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を把握し、その人の力量に合った研修を受けてもらっている。 スタッフ会議にて勉強会を取り入れている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の研修会、専門職のスキルアップ研修会に参加させ、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面接で本人様と家族様から生活状況を聞き、利用者様の要望や不安を理解するように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面接で家族様の不安、要望を聞き、対応できるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居をされるその日にもう一度本人様、家族様に、ここでどのように過ごしたいか聞き、その要望に応えられるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が出来る事を手伝ってもらっている。また、出来ない事は、簡単な事を職員と一緒にしない、関係を築いていっている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の態度が変わった時面会に来て頂いたり、受診をする際にも家族様にも一緒に付き添ってもらったりしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人が来られた時には、入居者様のお部屋にお通して、その方々と水入らずで話が出来るようにしている。	浅口市の市民文化祭に利用者の作品を出展し、その作品展をホームからも見に行った時、地域の人との思いがけない出会いがあったとても良かったと言う話を聞いた。家族も馴染みの人や場に連れて行ってきている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自分の発語が少ない方に職員から話しかけ、他の利用者様との会話の橋渡しをし、一人が孤立しないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院に入られている場合、面会に行き話をしている。また、届いた郵便物と一緒に手紙を書き、家族様に送っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中にもその方の意向や希望が含まれている事があるので、注意しながら聞いている。	「今日は天気が良いから外へ行きたい」等の訴えに対して、出来る事は直ぐに、今できなくても出来る限り実現できるよう努力している。歌が大好きなAさんは、思いついたらすぐにマイク片手に歌っているし、Bさんは昨年同様細工物をプレゼントしてくれた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様に、ここに来られる前は、どこでどのような生活をされていたかを時折、違う視点から質問して、より詳細なその時の状況を聞き出して記録に書きとめ、ケアにつなげている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方のバイタル、食事、水分量、排泄の状態、回数を個別ファイルで分けて確認し、顔色、行動等、いつもと違った事がないか常に確認している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度会議を開き、期限に近いケアプランについて担当者が原案を出し、その原案について皆で話し合っている。又、本人様の状態が変わった時等、家族様のご意向を再度確認をとっている。	本人や家族からここに至るまでの歴史や暮らし方を良く聞き、可能な限り、それがここでも継続出来るようケアプランを立て、見直しもしっかりとしている。記録等の様式も現場で使いやすいよう工夫している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違った行動、発言が見られた時は、詳細な記録を残すようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時計の電池を変えて欲しい、眼鏡を直して欲しい等言われた時には、家族様と相談し、直接職員がお店へ行って修理してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で市の職員や民生委員より、地域での取り組み等について情報を頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前面接時、本人様の馴染みのあるかかりつけ医を知り、入居後もそのかかりつけ医と関係が保てるように調整している。	職員の方でかかりつけ医の受診支援をする事が多いが、家族が付き添ってくれる場合もある。いずれにしても、本人・家族と医療との連携は出来る限り密にして、早目に適切な受診支援が出来るよう努力している。	1Fでは殆んどの場合職員が受診に付き添っていると言う事なので、将来の事も考えて受診支援体制を再度検討した方が良いと思う。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェックだけでなく顔色等も見て、いつもと違うと感じたら看護師に連絡を入れ、指示を仰いでいる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院前に病院のソーシャルワーカー、家族様と相談し、ホームに帰って来れる日を決めている。MSWと連絡を密に取り状況を把握している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や看取りをする場合の方針を説明し、同意を得ている。その後、重度化したり、看取りが必要になった場合、もう1度、家族様と話し合い、方針を決めていっている。	今までに看取りの経験はあるが、先だって「最期はホームで見てもらいたい」と言っていた人が家族の話し合いで入院となった。このように、終末期の方針を定めたり話し合いはしていても、その都度お互いによく話し合い、本人・家族の意向に沿った支援をしようとしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習会に随時参加している。また、緊急時の対応マニュアルや連絡網を作り、緊急時に備えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行って実際に利用者様にも動いてもらい、その時出た問題点をピックアップして、皆で話し合っている。	春と秋の年2回、夜間の火災も想定し、利用者も参加して避難訓練を実施している。2Fは自力で避難出来る人も居り、台所から離れた所に屋外避難階段も設置されている。スプリンクラーその他の必要な設備・設置は出来ている。	東日本大震災の状況から災害を身近な事と捉え、今までより一層シミュレーションをすることで対策を見直している所が多い。このホームでも運営推進会議でも議題に出してみてもどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その時、その人に合わせて、親しみやすい言葉使いをしたり、丁寧に話をしたり、常にここに居られる方々は人生の大先輩であるということをお忘れずに接している。	利用者一人ひとりの受け止め方に配慮し、言葉使いにも気配りしている。また、たよりの「やまぼうし通信」やホームページへの書き込みについても各人に了解を得る等、プライバシーにもよく留意している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志決定を行う時、なるべく簡単で分かりやすい説明を行い、意思決定が行いやすい環境をつくっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中、少し休みたいと言われる時は、自室で休んでもらい、ゲームや手作業等を無理に進めないようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時、着替えは入居者様自身に選んで着てもらっている。入居者様自身が選べない時は、スタッフがその季節にあった服を用意し、着て頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者が持ってきた食材だけでなく、ホールでお好み焼きやたこ焼きを一緒に焼いて食べたりしている。	食材は宅配で賄うが利用者の状態に合わせた調理をしている。今日も野菜をふんだんに使った昼食を職員も一緒に美味しく頂いた。希望献立で男の料理の日もあり、皆でお喋りもしながら楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や食事の形態をその人その人に合わせて出している。また、水分もお茶が飲めない時は、その人の好みの物を出して飲んでもらうようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い、一部介助のみで口腔ケア、義歯の洗浄ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間オムツを使用されていた方に声かけを行い、徐々にトイレの使用を進めていき、オムツが外せることができた。	一人ひとりの体調について、職員は毎朝伝達し合い情報を共有しているため、排泄の支援も自立に向けたものとなり、リハビリパンツから布パンツへ等、良い結果が見られている。パットの選択もきめ細かい配慮をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり摂ってもらい、朝、夕の体操、15時にはヨーグルトを食べて頂く等、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調、本人様の希望を聞きながら、最低週3回は入浴できるよう支援を行っている。	入浴に関してもほぼ自立している人も居るので、可能な限り今の状態を持続させたい。シャワーチェアを使用する人も3人居るが、今の所1人介助で良いので、入浴をリラックスして楽しむ時間に出来るよう心がけている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を見ながら昼間はなるべく活動的に過ごしてもらい、夜間、よく休んでもらえるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今、服用されている薬の説明書をすぐ見える所に置き、受診・体調の変化等で薬が変わった時、診察報告書に書き記し、職員全員に読んでもらっている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いが好きな方には洗濯物を干してもらったり、歌が好きな方には、CDを流して歌を歌ってもらったりして、その人その人に合わせて楽しんでもらっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に一度外出できる日をつくり、買物に行ったり、ドライブに行ったり、市の文化祭に見学に行ったりと外出できる機会をつくっている。	外出支援については目標達成計画の中にも盛り込み、各ユニットの小目標にも設定して取り組んでいる。1Fは「秋にはしっかり外出を」、2Fは「週に一度は外出を」等申し合わせて頑張っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人様が買いたい、欲しいと言われる時、家族様に相談し、一緒に買いに行ったり職員が買いに行ったりしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族や知り合いからの電話があった時は、直接、電話に出てもらっている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>その季節に合った飾りつけをし、また、その季節に合った花等を花瓶に生けて、皆様に楽しんでもらっている。</p>	<p>ホール前のベランダや広い敷地、ホーム周辺の桃畑や田畑等の景観も居心地良い美しい空間をつくっている。昼食時には、利用者の希望も取り入れたクラシックやオルゴールの曲で、心が和む工夫をしている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>日中、ソファで過ごす時も、食事をする時も互いに向かい合って座ってもらい、話をしやすいように席を配置している。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅に居られた時に自分で作られたというPトイレを持ってきてもらい、それを活用してもらっている。</p>	<p>去年は少し寂しげな居室も見られると話していたら、今回1Fでは各部屋に専用ボードを取り付け、絵や季節感のある飾りが見られた。家族との交流の場ともなるので、今後も居室の活用は目標の一つとして継続したい。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>全館バリアフリーで、手摺もつかみやすい所に設置している。</p>		